

情報通信審議会 情報通信技術分科会
陸上無線通信委員会 基幹系無線システム作業班（第3回）議事録（案）

1 日時

平成26年3月4日（火）13:30～14:30

2 場所

総務省 共用10階会議室

3 出席者（敬称略）

主 任 唐沢 好男

主 任 代 理 中川 永伸

構 成 員 伊藤 泰成、井野 年勝（代理）、江場 健司、上野 弘文（代理）、
小笠原 守、岡田 良教、小山 祐一、笈 雅光、笠松 章史、
坂倉 彰（代理）、重野 誉敬、鈴木 健児、拮石 康博、
福本 史郎、藤井 康之、松田 和敏、村上 信高、
森田 英雄（代理）

オブザーバー 縣 幹哉

事務局（総務省） 森基幹通信課長、中越課長補佐、下地係長、結城官、権田官

4 配付資料

基幹班 3-1 基幹系無線システム作業班（第2回）議事録（案）

基幹班 3-2 情報通信審議会 情報通信技術分科会 陸上無線通信委員会 基幹系無線システム作業班 報告（案）第1章 固定系無線システムの概要

基幹班 3-3 固定系無線システム高度化に向けた検討項目

基幹班 3-4 第2章 固定系無線システム高度化の技術的条件 2.1 固定通信システムの技術的条件

基幹班 3-5 第2章 固定系無線システム高度化の技術的条件 2.2 FWAシステムの技術的条件

5 議事概要

- (1) 基幹系無線システム作業班（第2回）議事録（案）について
事務局から資料基幹班 3-1 に基づき説明が行われ、了承された。
- (2) 固定系無線システムの高度化等のための検討課題について
事務局から資料基幹班 3-2、3 に基づき説明が行われた。

○唐沢主任

今般規定の見直しを行う固定系無線システムは、東日本大震災の際利用された実績はあるのか。

○事務局

震災の際には、ネットワーク修繕や光ファイバーの補完として固定系無線システムが利用されたと伺っている。その際の使い勝手を踏まえて、どのようにすればより使いやすくなるのか現行制度を含めて検討を行った。

○唐沢主任

ニーズを踏まえて現行の規定を見直すことで、非常災害時のみならず、柔軟な利用が行えるようになると思う。

(3) 第2章 固定系無線システム高度化の技術的条件 2.1 固定通信システムの技術的条件について

小笠原構成員から資料基幹班 3-4 に基づき説明が行われた。

○唐沢主任

前回の作業班の際に、降雨減衰マージンの算出方法ということで、M 分布・ γ 分布の話があったが、どのようになったのか。

○小笠原構成員

降雨減衰マージンの算出方法として M 分布・ γ 分布の両パラメータを用いて、所要降雨マージンを算出できるよう規格の見直しを行うこととした。

○唐沢主任

直交偏波について、交差偏波識別度補償機能のみだけでなく、もう少し幅広い概念として偏波 MIMO についても言及してはどうか。

○事務局

高度化を行うに際して両偏波多重方式を盛り込むこととし、その際に求められる必要な技術として交差偏波干渉補償機能も技術的条件ということで記載している。

(4) 第2章 固定系無線システム高度化の技術的条件 2.2 FWA システムの技術的条件について

オブザーバー縣氏から資料基幹班 3-5 に基づき説明が行われた。

○笠松構成員

技術的条件の検討の方向性は、技術的が高度化している分野である本システムの、技術基準、審査基準等について、現行の技術水準にそろえることとする。また、現在の設備規則や審査基準は、利用する帯域や目的によって、規格の記載が異なる書きぶりとなっている点があるので、統一を図ることとする。

○唐沢主任

多元接続方式についての記載は、周波数分割複信方式又は時分割複信方式のみであるが、符号分割多元接続方式を排除したものとなっているのか。

○縣氏

符号分割多元接続方式を制限するものではない。

○中川構成員

符号分割多元接続方式については、利用の要望がなかったことから、検討を行っていない。

6 その他

事務局より、次回開催については、4月3日の開催予定である旨説明が行われた。

以上